

インフルエンザの注意報発令について

平成 23 年 1 月 27 日

保健予防課感染症係
 氏平（3140）
 中尾（3132）
 TEL 0742-27-8612（直通）
 0742-22-1101（代表）

奈良県内では、第3週（平成 23 年 1 月 17 日～1 月 23 日）のインフルエンザの定点当たりの患者報告数が「15.6」となり、注意報の目安となる「10」を超えました。今後、大きな流行が発生する可能性があります。

1. 注意報の発令

1 週間あたりの患者数が増加しており、本格的な流行段階に入りました。

※ 第3週（平成 23 年 1 月 17 日～1 月 23 日）の定点当たりの患者数が 15.6

2. 流行の拡大

特に、昨年に比べて、急激に流行が拡大しています。

定点当たりの患者数が、2 週間前と比べて 8 倍に増加しています。

（平成 23 年 第 1 週：2.09 → 第 3 週：15.6）

3. 重症化・死亡例

県内の 1 月以降の入院患者数は、23 人。

そのうち、重症者は 1 人（40 歳代男性、人工呼吸器装着、基礎疾患有り）

全国の死亡例の状況は、死亡者 35 人。

そのうち、29 人（8 割）が基礎疾患有り、

50 歳以上の死亡者は 25 人で全員が基礎疾患有り

※ 県内における死亡例はありませんが、今シーズンも新型、季節性を問わず、お年寄りや基礎疾患をおもちの方、幼児、妊婦の方を中心に、昨シーズンと同じく注意が必要です。

4. 学級閉鎖等の状況（1 月 26 日 18：00 時現在）

	1 2 月		1 月～		
	学級	学年	学級	学年	臨時休業
幼稚園	0	0	31	0	1
小学校	4	0	129	1	1
中学校	5	0	21	4	0
高等学校	0	0	20	0	0
特別支援学校	0	0	4	0	0
合計	9	0	205	5	2

県民の皆様へ

◎ワクチン接種のすすめ

- インフルエンザワクチンは、重症化防止に有効とされています。
- 特に、糖尿病や心疾患など基礎疾患をお持ちの方、小児、高齢者の方は重症化しやすいのでお勧めします。
- ワクチンの効果が出るまでに2週間以上かかると言われていますので、接種をされていない方はできるだけ早く接種することをお勧めします。

◎できるだけ感染をしないように下記のことを心がけましょう

- 手洗い、うがいは、感染予防の基本です。
- 外から帰った時など、こまめに手洗い、うがいをしましょう。
- 人混みへの外出を控えましょう。
- 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心がけましょう。
- 乾燥を避けて、適度な湿度を保ちましょう。

◎人にうつさないために咳エチケットを励行しましょう

- 咳、くしゃみの症状があるときはマスクをするなど、咳エチケットを徹底しましょう。

◎医療機関の受診について

受診の際は、必ず、あらかじめ電話をして、マスク着用の上、お出かけください。

喘息等の慢性呼吸器疾患や人工透析中の方など基礎疾患のある方、並びに妊娠中の方などは、重症化するリスクが高いため、あらかじめかかりつけ医と相談しておき、インフルエンザ様症状がみられたときは、すみやかに医療機関を受診して下さい。

また、もともと健康な方でも、次のような症状を認めるときは、重症化する可能性がありますので、すみやかに医療機関を受診して下さい。

●小児の場合

呼吸が速い、息苦しそうにしている、顔色が悪い（土気色、青白い等）、おう吐や下痢が続いている、落ち着かない、遊ばない、反応が鈍い等

●大人の場合

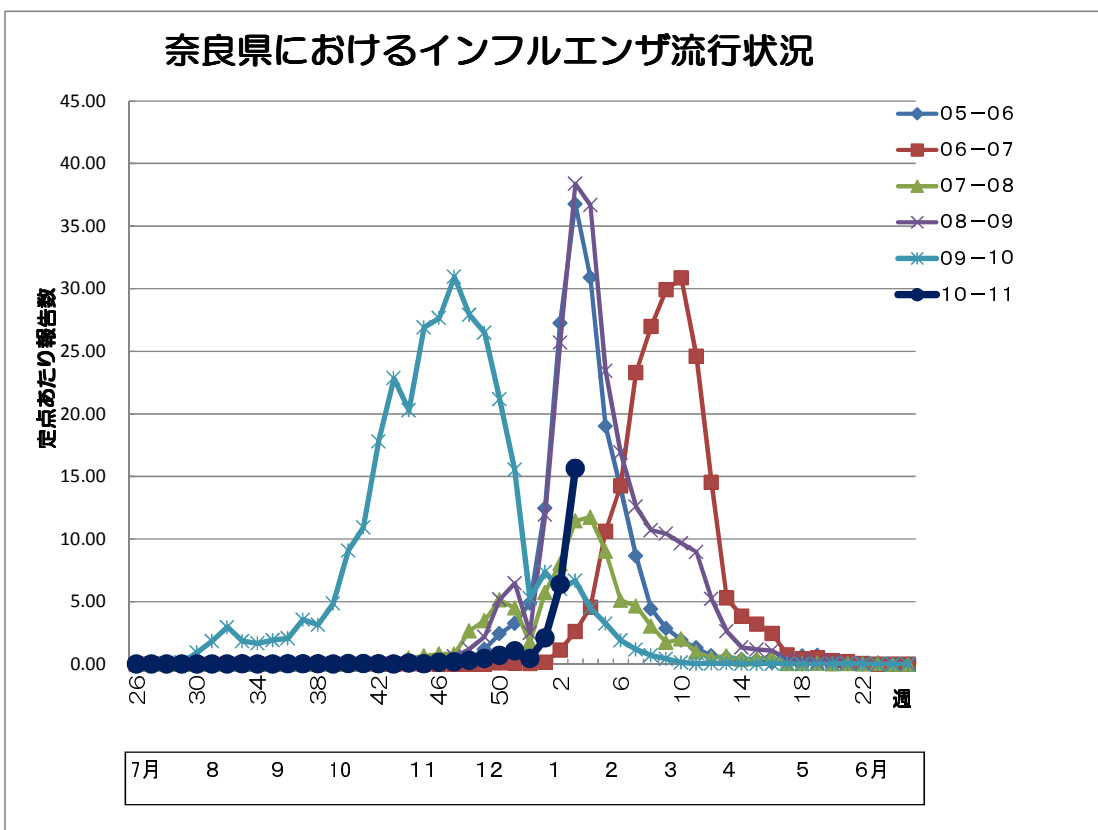
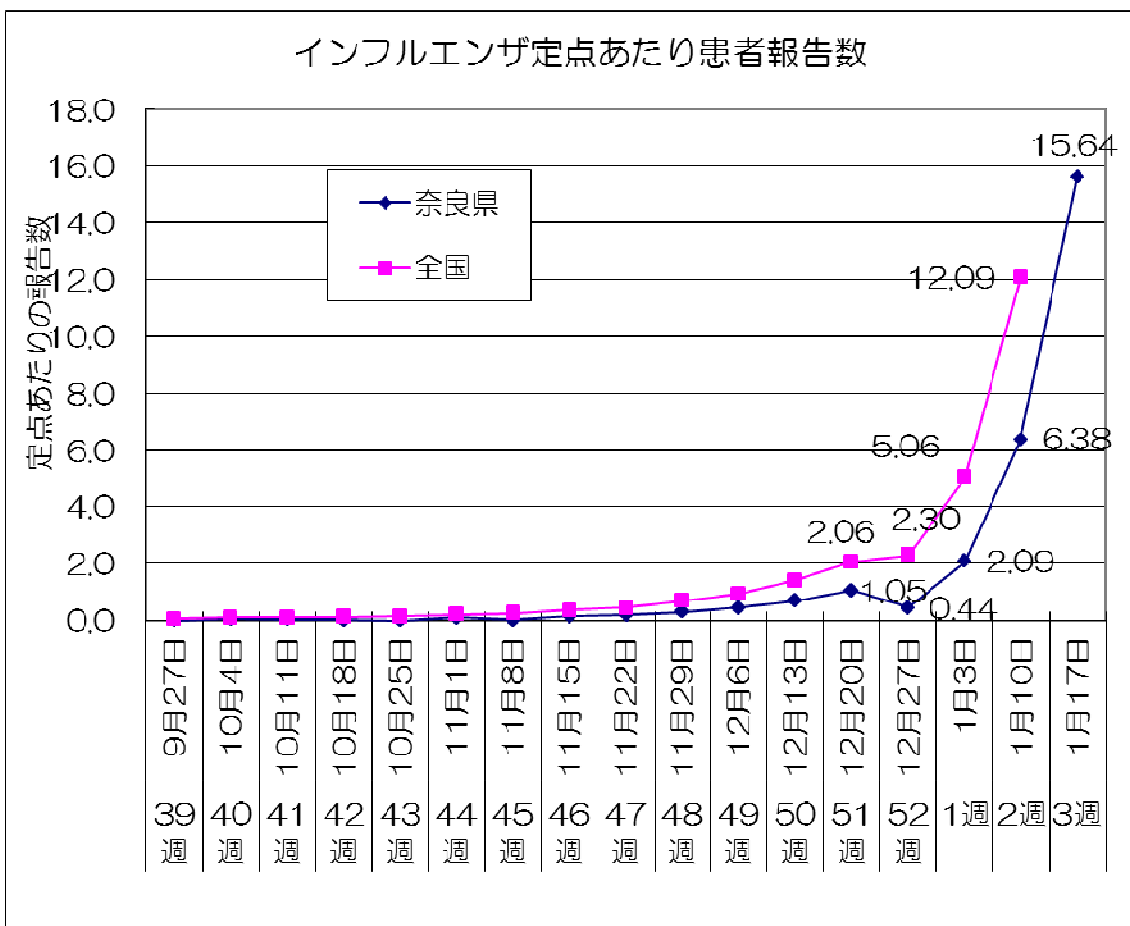
呼吸困難または息切れがある、胸の痛みがつづいている、おう吐や下痢がつづいている、3日以上発熱がつづいている等

休日、夜間においても、これら重症化のリスクが高い人たちがすみやかに受診できますよう、熱や咳、のどの痛みなどの症状があっても軽症の方はできるだけ、昼間の診療時間内に受診していただくよう、ご協力をお願いします。

資料

※ 定点とは、県が指定した医療機関で、インフルエンザについては、55か所の医療機関から週1回患者数が報告されます。

(1) 発生状況



(2) 地域別の状況

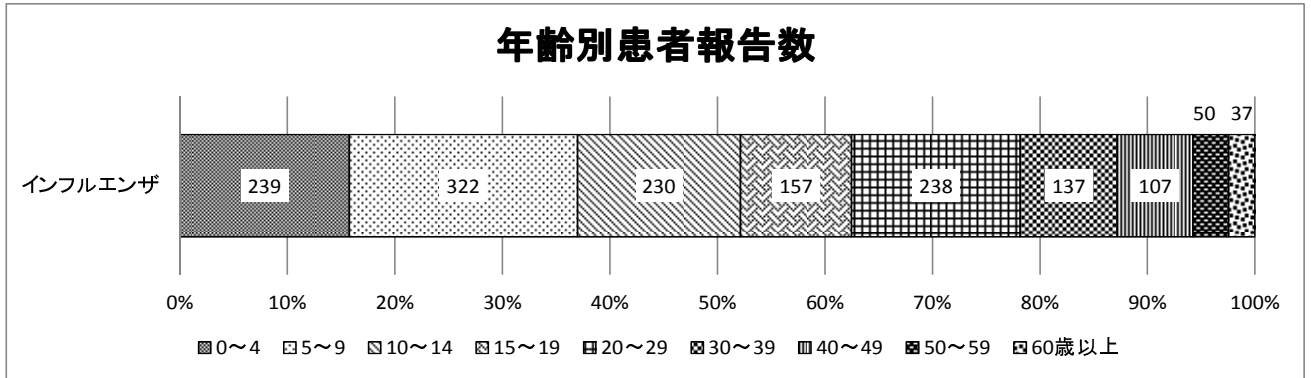
保健所管内別では、すべての管内で「10」以上です。

第3週の保健所管内別にみた定点あたり報告数

	奈良市	郡山	葛城	桜井	内吉野	吉野
定点あたりの報告数	12.91	16.63	17.82	14.91	15.00	15.67

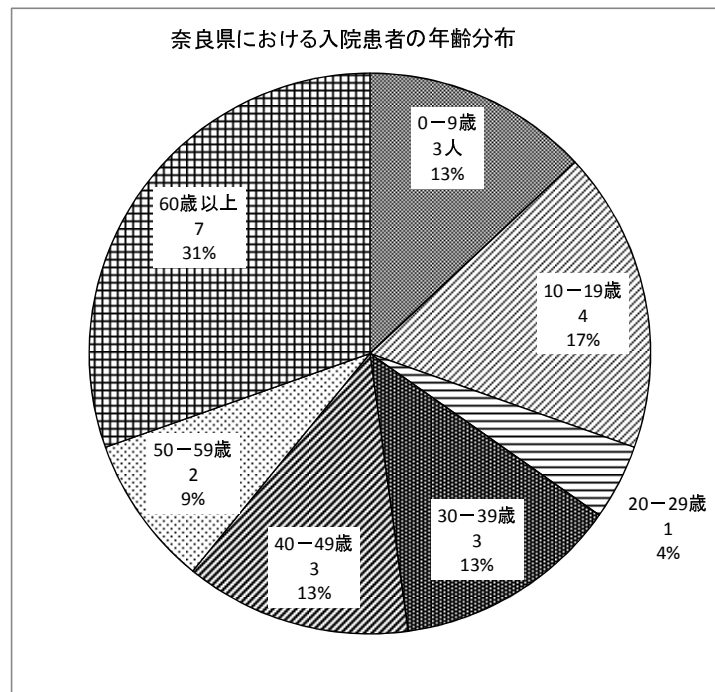
(3) 年齢別の状況

報告数が最も多い年代は5歳～9歳（322件）、次いで0歳～4歳と小児に多くみられます。成人では20歳代に多くみられます。



(4) 入院患者

1月以降の入院患者の報告数は23人です。60歳以上が7人と最も多く、ついで10歳代が4人、10歳未満、30歳代、40歳代がそれぞれ3人、50歳代が2人でした。そのうち重症者は1人（40歳代男性、人工呼吸器装着）です。外来患者は小児に多かったですが、入院患者は成人が多くみられます。特に高齢者は注意が必要です。



(5) ウイルスの検出状況

県内における平成22年7月22日から平成23年1月21日までのインフルエンザウイルスの検出状況は、AH1pdm（新型）が195件、AH3亜型（A香港型）が105件と新型が多くなっています。1月に入って11例検査したところすべてAH1pdmでした。今後も新型の流行が主となると思われます。